

# 地方 紀民 行鉄

## 三岐鉄道株式会社



緑そよぐ畑や雑木林。  
ゆっくり走る

小さな電車の線路沿い。  
「歩きたくなるみち」を歩けば、  
思わぬ出会いが待っている。

三岐鉄道北勢線は日本国内に三つしかないナローゲージの一つ。つまり、線路の幅が狭いのだということは分かってきた。その狭い線路の上を走るのだから、電車の幅も当然狭く、「向き合って座ると、足がぶつかりそうになる」ということも、インターネットで調べて知っていた。知ってはいったのだけれども、文字と写真で知っているのと現物を目にして知るのは大違い。初体験のナローゲージ、北勢線の第一印象は、狭い・小さいではなく可愛い。

### 「小さいもの」は電車も可愛い

西桑名駅にゆつくりと入ってきた北勢線の車両幅は211cm、JRの在来線の車両と比べると大体70cmくらい幅が狭いことになる。70cmという長さは短くはないけれど、電車の大きさを考えれば、それほどの差でもないんじゃないかと思っていたら大間違い。

確かに、乗り込んでしまえば、落ち着いた水色の長い座席につり革と、狭くはあっても車内仕様はいたって普通。ところが外からその姿を見てみると、縦長のほっそりとした車体は、菜の花のような明るい黄色に塗られていることとあまって、何だかもうおもちゃのような愛らしさ。「小さいものはみな可愛い」。かの有名な『枕草子』の中で清少納言が言つとおり、70cm小さくなると大きな電車も確かに可愛い。

おもちゃのような黄色い電車は住宅地を抜け、緑のなびく畑や雑木林の中を各駅停車の

ゆつくりとしたスピードで走る。乗っていると見られない、その絵本のような景色が見たくて、早く降りたくなってくる。

目指す楚原駅までは西桑名駅から41分。

### 小さな電車と小さなトカゲ

さて、楚原駅から終点の阿下喜駅の間には「美しい日本の歩きたくなるみち 500選」に選ばれたウォーキングコース「軽便鉄道と昭和のまちに出逢う道」がある。北勢線の線路に沿うように延びるこのコースを歩けば、田園風景の中を走る電車の姿も見られるはず。距離は9km、運動不足の身で踏破できるか、とにかく出発。

無人の楚原駅を出て、持参したコース地図を頼りに、まずは沿線の撮影スポットとしても人気の「ねじり橋」と「めがね橋」へ。

住宅地を歩くこと15分程度。広がる畑の端にポッカーリ開いた空間が「ねじり橋」。フロックをひねって積み上げる、「ねじりまんぼ」という工法で作られたコンクリートブロック製の橋はとても希少。現存する橋では唯一とも言われ、土木学会選奨土木遺産に認定されているとか。技術的なことは残念ながらよく分からないけれど、斜めにねじれた橋は、堅固なのに危ういようで、じっと見上げているとクラクラしてくる不思議な印象。

「ねじり橋」をくぐり抜けて数十メートル歩くと、今度は「めがね橋」に到着。「めがね」と言つわりにアーチが一つ多いのはご愛嬌。「めがね」に見える角度はないかと探し



「1日乗り放題バス」の場合、無人駅ではインターフォンとカメラでバスを確認してもらう。



運転手さんが横に立つと、車体の小ささが際立つ。

### 三岐鉄道 北勢線

【さんぎてつどうほくせいせん】

日本国内に3箇所だけ残るナローゲージ(軌間762mm)のひとつ。沿線住民の通勤・通学の足として、西桑名駅から阿下喜駅まで、全13駅を1時間で結ぶ。



「ねじり橋」(右)と「めがね橋」(左)。「めがね橋」も土木学会選奨土木遺産。

ていとう、電車の通過を知らせる踏切の音が響き出し、シャッターチャンス到来。カメラを抱えて片膝をついた途端、生い茂る雑草の中、葉っぱの先にしがみついた小さなトカゲと目が合つて、お互いしばし凍りつく。

間近に響く電車の音にわれに返り、慌てて写真を撮つてから視線を戻すと、トカゲの姿は消えていた。爬虫類は苦手だけれど、なるほど小さきものはトカゲでも案外可愛かつたのにと、少々がっかり。

ともあれ、小さな電車の走る勇姿は見られず、さあ歩け歩け。

### 思わぬところでコースアウト

右手には北勢線の線路と雑木林、左手には青々とした麦の海。遠くの道路を車が行き来するほかは、人っ子一人いない道。風にざわめく麦と鳥の声と虫の羽音。静かなよつて賑やかな空間を独り占め。

鼻歌交じりに気分よく歩いていると、前方から青い作業着の男性が一人。手を振っている? と驚いていると、「サルの群れが来るから、戻りな」と言う。言われて道の先に目を凝らすと、雑木林の中から茶色いかたまりが「ついつつ……」とどんどん出てくる。

やっぱりウォーキングコースを歩きたかったと、未練がましく「サルは、人が来たら逃げていきませんか」と聞くと、「目が合つたら、飛び掛かってくるよ」と一言。おとなしく迂回路を歩いて麻生田駅に到着。

### サルにも負けず、阿下喜駅まで

コースは麻生田駅でまだ約半分。とはいへ、サルの妨害でプラスαの距離を歩いたせいか、単なる体力不足かでちよつと疲れた。ちよつとそこへ、1時間に1、2本しか来ないはずの電車がやって来る。「迎えに来たよ」とでも言われているような絶妙なタイミング。

でも、ここで歩くのを止めるのはサルに負けたような気がするし、何より「歩きたくなるみち」を歩かないのはもったいない。電車の迎えは阿下喜駅まで遠慮して、ウォーキングコースに復帰。

コース後半の見所は、員弁川沿いの桜並木の遊歩道。畑と川の間は、サルに邪魔されることはなさそう。景色を楽しみ、ゆつくりテクテク。一息ついて、またテクテク。桜並木は果てしなく、終着点はまだまだ見えない。桜の季節は壮観だっただろうなと思いつながら、テクテクテクテク。コースを歩ききつたら、きつとぐつたり。疲れ果てて見る電車は、「可愛い」よりも「頼もしい」かもしれない。それも何だか楽しめたと、さらにテクテク。

行く手に町並みが見えてくれば、ゴールまであともう少し。迎えの電車は可愛いかな、頼もしいか、さてどっちだ?



阿下喜駅側から振り返って見た桜並木。総距離 1600 m。麻生田駅に来た電車は、緑とクリーム色の2色でペイント。

コースの先にサルが出没。